

もしもし 11.1.1

【解説】

「もしもし」は、一人遊びの神経衰弱です。

お腹に数字が書いてある亀が歩き回っていて、同じ数字の亀が2匹ずついるので探してください。

亀は裏返して数字を見る事ができて、2匹の数字が一致すればその2匹は消え、数字が一致しなければ元に戻って歩き始めます。

30匹の亀が全て消えるまでの時間が成績です。

通常の神経衰弱と違い、数字を書いてある亀が動き回っているので、単純な記憶力だけでは不十分で、亀の動きも把握している必要があります。

バージョン11.0.0からUnityで全面的に作り直しました。
画面構成が変わりましたが、ルールは全く同じです。

【操作】

ウインドウ下の開始ボタンでゲーム開始します。

裏返す亀をクリックしてください。全ての亀が消えればゲーム終了です。

詳細の説明は画面左下の説明ボタン（？マーク）で表示されます。

【成績記録】

「もしもし」の成績は、ユーザー毎の書類フォルダ内の“henjinsoft”フォルダ内の“もしもし”フォルダ内の“もしの成績”ファイルに保存されています。

このファイルのバックアップが有れば、障害時の復旧や新しいPCに入れ替える等の際に成績を移行するために使用出来ます。

この仕様のため、システムから「書類フォルダにアクセスしようとしている」と言った旨の確認が表示される事があります。

※：書類フォルダの名称はシステムにより異なります。

（“書類”、“ドキュメント”、“Documents” など）

【動作環境】

使用するOSによって複数の版があります。動作環境や版毎の制限事項については、別に添付している「動作環境について_Unity」というドキュメントを参照してください。

動作にはインターネット接続や他のアプリケーション等のインストールを必要としません。

【インストール】

「もしもし」は特にインストール作業を必要とはしません。どこからでも起動できるので適当な場所に置いておいてください。不要になった場合も単にファイルを削除するだけで構いません。

起動すると設定や成績記録のためのファイルを作ります。ファイルの場所は動作環境に依存します。

【配布条件】

「もしもし」は、Freeware です。複製・配布は自由ですが、内容の変更等は出来ません。その他、一般的な Freeware のルールに従って下さい。

なお、配付に関しては自由に行って構いません。ネットワークへのアップロードやCD-ROM等への掲載等、どのような媒体に転載する場合でも、作者の承諾は不要です。

【開発環境】

「もしもし」は、Unity2020.3.49f1で作成されています。

【バージョン履歴】

2025.10.17 11.1.1

Unityのセキュリティ問題（CVE-2025-59489）の対応

2023.05.27 11.1.0

亀の挙動不良の対応

細かな動作の調整

内部処理の調整

画面デザインの微調整

2023.05.10 11.0.0

Unity2020で全面作り直し

：

2002.03.21 1.0.0

初版

2025.10.17 竹内 (Macの変人) 喜代志